

新年のご挨拶



玩具人形健康保険組合

理事長 戸所 正敏

あけましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、当健康保険組合の事業運営に対し、平素より多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

わが国の高齢化は、他国に例を見ないほど驚異的なスピードで進んでおり、健康保険組合を取り巻く情勢は年を追うごとに厳しいものになっております。高齢者医療制度等への拠出額の負担は増大する一方で、健康保険組合連合会（健保連）がまとめた「平成25年度健保組合決算見込の概要」における健康保険組合全体の支出をみると、保険料収入に対する支援金・納付金等の割合は45%に達し、50%を超える組合も約3割にのぼります。平成27年度には、すべての団塊の世代が前期高齢者（65歳～74歳）となるため、さらなる納付金の増大は避けられない見通しです。こういった状況を鑑み、健康保険組合は政府に対して、現役世代の保険料に過度に依存する構造の見直しを強く求めてきましたが、いまだ実現に至らないのが現状です。

平成27年度は医療保険制度改革の年であり、持続可能な制度を構築するための重要法案が国会で審議される予定となっています。安心できる社会生活に国民皆保険は不可欠なものであり、その中核を担う健康保険組合の存立を脅かす現在の高齢者医療制度の見直しにも、ぜひ着手してもらう必要があります。そして、消費税収をもとに公費を投入し、公正な費用負担を実現させなければなりません。

一方、医療費適正化の取り組みの一つとして、平成26年度からデータヘルス計画の策定がスタートしています。平成27年度は計画が実施へ移される、健康保険組合にとって非常に重要な一年となります。データヘルス計画は、これまで私たち健康保険組合が行っていた健康管理事業の延長にあり、加入者の皆様の健康管理をお手伝いしつつ医療費の削減につなげる一大事業です。皆様の健康を今まで以上に支えていけるよう、着実に実行してまいり所存ですので、皆様におかれましては、これらの健康管理事業を積極的にご活用いただき、毎日をすこやかに過ごしていただきたいと存じます。

最後になりますが、本年が皆様にとって実り多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。